



大八防災プロジェクト

～多角的な防災アプローチで防災意識アップ～



岐阜県高山市 大八まちづくり協議会事務局
山本 真紀

1 はじめに

当協議会では「安心して暮らせる希望のあるまち」を目指してさまざまな活動を行っています。近年、大八地区でも土砂災害等が発生し避難所を開設することが増えました。そこで、地域全体の防災意識を向上させることが急務であると考え、今まで以上に防災啓発に力を注ぐようになりました。住民一人ひとりが「わたくしごと」として防災を考えるきっかけを作り、防災力のアップを図ることを目的として「大八防災プロジェクト」を企画し、取り組んでいます。

2 世代に応じた防災啓発

幼稚園や保育園の小さなお子さんからシニア層まで世代ごとにターゲットを絞った防災講座を継続して行っています。保育園では、防災紙芝居やリズム遊び、クイズを取り入れた内容。小学生はシール等



大八防災の日
総合防災ワークショップ

を使った防災の持ち物を考える当協議会オリジナルの教材などを利用したワークショップ等を。中学生はタブレットを使った自分のハザードマップ作り、シニア世代はハザードマップの見方や簡単なバッククッキング等です。

10月に開催した総合防災ワークショップ「大



保育園での防災ワークショップ



小学生と防災マップ探検



シニア層ハザードマップ講座

八防災の日」では500名を超える参加がありました。このようになるべく体験型のワークショップを取り入れ「わたくしごと」として捉えてもらえる工夫をしています。



避難所チェックシート



カレンダー

3 いつでもだれでも

当協議会の広報紙(月1回発刊、全世帯配布)では継続して、防災意識調査アンケートの結果、防災に役立つ情報、地域防災の取組みを掲載しています。

また、忙しくてワークショップやイベントに参加できない方にもちょっとした時間で防災について考え、実際にアクションを起こすきっかけとなるように「大八避難所チェックシート」を全世帯に配付しました。これは、自分の近くの指定避難所や一時避難所まで歩き、かかった時間を記入して当協議会に提出すると地域のお店で使える「大八クーポン」がもらえるという企画です。従来のイベントや講座と違い時間にしばられることがないのでたくさんの方がこの取組みに参加されました。令和4年度は地域の防災情報満載の「大八防災カレンダー」を作成し、全世帯へ配布することでさらなる啓発にも力を入れています。その他にもSNSや中学生対象のフリーペーパーを利用し、より広く皆さんに伝わる努力を続けています。

4 取り組みの成果

65歳以上対象の「知っ得ランチ」では回を重ねるごとに参加者の防災意識や防災力が高まり、この講座参加をきっかけに2名の方が防災士になりました。

オンラインで行った防災意識調査では、児童生徒を対象にした防災教育のおかげでなかなかアプローチできなかった親世代(30代40代)が防災意識を持ち始めていることもわかりました。防災に興味を持った子ども達が地域の防災イベントのスタッフとして主体的にボランティア参加する場面もありました。

中学生は自助を学び、様々なワークショップを体験することで共助への意識が芽生え、地域愛が育ち、防災は地域のつながりが大切だという気づきがありました。また、防災はマニュアルではなく「自ら頭を使って考える」ことの大切さを見出し、地域の大人に向けて提言を堂々と発表する場面もありました。このように行政や各種団体と連携することで多角的な防災啓蒙アプローチができ、世代や性別に関係なく防災イベントや活動に参加する方が目に見えて増加しています。

5 おわりに

実態把握→分析→ターゲットを絞った企画立案→実施→振り返り→企画立案→を繰り返す、実態にあったアプローチを持続的に続けることで一步一步確実に地域住民の防災意識は高まり始めています。これからも常に実態を捉え、持続する防災啓発を行いさらなる防災力の向上を目指していきたいと思えます。